こどもエコクラブサポーター交流会実施報告書

開催日時:　平成27年2月8日 （日） 10:00～15:00

開催場所:　一宮スポーツ文化センター

主催:　NPO エコバンクJapan

協力:　こどもエコクラブ全国事務局

参加者:　千成トワイライトスクールエコクラブ（名古屋市）
高田チーム（江南市）
半田エコクラブ（半田市）

当初予定スケジュールは、午前が主にこれから活動を始めるまたは始めたばかりのサポーターを対象とした「クラブ運営」に関する講座、午後はクラブの活動事例紹介とフリートークによる交流タイムであったが、参加者は想定していた活動経験の浅いサポーターではなく、全員活動歴が長く講座内容は熟知していたため、参加者からプログラム内容変更の提案があった。当交流会は１年に１度集まることによって情報交換を行い、交流を深め、エコクラブが発展することを目指しているが、内容変更はその目的に照らし合わせて妥当であると全員一致した。その提案により、参加者に当会会員が加わり、午前はエコクラブのあり方、こどもエコクラブ全国フェスティバルについての意見・提案を議論し、提言をまとめた。午後は当会主催で次年度開催予定のこどもエコクラブ交流会の行事計画について議論を行った。

＜議論要約＞

1.「こどもエコクラブのあり方」について

こどもエコクラブ活動の核心は「こどもが自主的に環境活動を行うこと」である。エコクラブ導入期は「環境について教える」段階で、情報や知識の伝授に力点があった。その後万博開催を機に、自治体、学校、企業による環境行事や環境学習の機会が増え、家庭においても環境への問題意識が浸透してきており、こどもだけでなく人々の環境意識の広がりにおいてエコクラブ活動の果たした役割は大きい。次の段階として、「学んだ知識をいかして現在の環境についての問題点を見つけ出し、解決策を考えていく」という、本来のエコクラブ活動への質的移行が十分になされたとは言い難いと考える。各クラブの活動を吸い上げて同じような分野の問題に取り組むクラブ同士の連携を支援したり、必要であれば専門家の助言を得られるようサポートするなどの体制を構築できるよう協力したい。

6・3・3という学校制度の区切りに捉われず、こどもたちの成長に合わせて10年から20年という長期にわたって一貫した環境への取り組みを促す視点が重要である。未就学期から環境への環境を持たせ、小学生で身近な環境に取り組み自主的な活動を身につけ、中学・高校生では進学のための勉学により十分な活動時間が取れないこともあり活動が停滞するのはやむを得ないが、自分のなかで意見や考えを育むことを助け、大学・大学院生では自分の専門分野からの視点で環境問題を考え最終的には社会に貢献できる人材になることを、エコクラブ活動を通して実現できることが関係者の願いである。

現状では、小学生を対象とする情報提供、学習機会の提供、行事の開催が中心である。就学以前のこどもの興味の惹きつけや、活動が停滞しがちな中高生に環境への関心を持ち続けさせるためのツールの整備、大学生・大学院生の専門分野を活かせるプログラムを充実させていくことは重要であると考える。

2.「こどもエコクラブ全国フェスティバル」について

現在参加者の中心となっている小学生にとっては、環境が様々に異なる地域からの参加者が一堂に会してお互いの活動を知ることは、知識として取り入れる一方通行の学びになりがちである。全国規模ではなく、全国を数ブロックに分け、ブロックごとの交流会を開催してはどうか。

継続して全国フェスティバルを開催する場合においても各ブロックから全国フェスティバル参加のクラブは選抜制ではなく、希望団体制、輪番制、こども達による他薦制など各ブロックが決定する。参加するクラブは、同じよう

な分野の活動をしているクラブをグループにしたり、似た環境を持つ地域のクラブをグループにして意見を交換できる形にすれば、話し合いが深まり、刺激し合い、問題の共有意識ももてるのではないか。
　また、こども達の投票により決定する壁新聞やプレゼンテーションへの賞の授与は、活動内容そのものの評価ではなく、壁新聞やプレゼンテーションのスキルの評価になる可能性がある。成長段階に合わせて個々の活動の内容の絶対評価をして助言を加えれば、活動意欲を高めていけるのではないか。

3.「平成 27 年度こどもエコクラブ交流会」について

・開催場所の選定
以前開催していたエコハウスはアクセスが悪く、参加者にとって不便。
プログラムの内容を鑑みると、スポーツ文化センターが適切。
名鉄・JR 一宮駅から徒歩 10 分程度の立地で便利。
・開催時期の選定
秋期は学校行事や地域行事が多く、参加しづらい可能性がある。
スポーツ文化センターの予約確保の都合上、選択可能期間が短い。現在 11 月末ならば可能。
・プログラム
午前は体験プログラム（工作・自然観察・実験の組み立ては継続する。参加者の希望により選択）
午後は交流。
定例化してきているとの指摘がある。
環境問題に関しては各分野に諸説があり、一つの見解のみを提示することには問題があるという見方がある。
今年度の参加者から、交流を重視した行事の方針は評価された。今後も交流重視の方針。
交流の効果を最大限上げる適正規模は、参加者60～70名ぐらいと想定。
直近の参加者はこれを下回るので、参加者の増加が課題。
募集方法の再考が必要である。具体的な改善は今後検討する。

議論要約の1と2については、提言としてまとめ、こどもエコクラブ全国事務局に提出する。

　午前 2 時間、午後 2 時間にわたる議論であったが、エコクラブ発展への参加者の真摯な思いを示す内容であった。エコクラブの目指す姿を共有し、今後の発展に微力ながらも貢献できるよう活動していくことを確認して散会となった。